

石クリ通信

2月号

言葉のおしやり

院長 石川 悟

「女性に服装だけでなく、言葉もおしやりを・・・」という趣旨の本（楠本憲吉著）があります。まさに同感です。実際、診療中おしやりをした若い女性に「ションベンたれたら痛くて」と言われて愕然としたことが以前ありました。最近「言葉の厚化粧」ともいうべき敬語の重複も気になります。「させていたただきたいと存じます。」「ごさいます」の連発など。また尊敬語と謙譲語の混同もよく耳にします。「どうぞいただいて下さい。」「奥様おりますか？」など。敬語を否定するわけではありませんが、敬語というオブラートに包まれた刺のある言葉を排して、シンブルな言い方でも思わずお互いニコッとするような機知に富んだ会話やほのぼのとした思ひやりのある言葉をいつも使って行きたいと思っています。

年始めに原点回帰を誓う

ゲストオーサー 山崎 隆博

先日、あるビジネス雑誌にセブンイレブンの一人勝ちの勝因が載っていました。勝因は『原点回帰（近くて便利）』なのだそう。です。われわれも、『原点（患者さんのために）』を忘れず、発展に努めていきたいと、年始、胸に刻み込みました。経営の効率化や行政の方針のみを考えるのではなく、時には少しくらいわき道にそれても・・・、原点を忘れず、進んでいきます。新しい年の初めは、原点に回帰するにはうってつけの時でしょう。

くしゃみの速度は新幹線よりも高速！？

事務 森 絵里子

最近風邪、インフルエンザが流行っています。これは雑学の本から学んだ知識ですが、人間の吐く息には驚くほどのスピードがあるそうです。普通の呼吸は時速一〇〇キロで、自転車とほぼ同じスピードです。ところが咳をした時の空気は時速二〇〇キロ、くしゃみだと約三二〇kmの速度になります。ちなみに東海道新幹線の最高速度が二七〇キロ、台風の風速が時速一二〇キロです。人間の咳は、ほんの一秒たらずで一〇〇メートル先の人の届いてしまいます。風邪の症状がある方はもちろん、予防のためにマスクを着用しましょう。

眉間のシワ

事務 久保 直子

朝起きて鏡を見ると、眉間に深いシワが刻まれています。苦悶の表情を浮かべて寝ているのか？悪夢を見ている訳でもないのに。変なクセがついてしまったものですね。年を重ねる毎に刻まれるシワは素敵ですが、変なクセでできたシワは悲しいだけです。どうすればこの変なクセが治るのか？考えながら毎朝眉間にクリームを塗りこんでいます。

石クリはイベント好き

事務長 石川 都

石川クリニックは、いつも明るく前向きな院長の方針で、開院以来「何事にも皆で楽しく盛り上がる！」ことに力を入れています。毎月の院内コンサートもだいたいぶ定着し、毎回楽しみにして下さる常連の方々も増えてきました。また内輪でも、新年会や忘年会、開院記念日やスタッフの誕生会など、事あるごとにイベントを設け、皆でランチやケーキと一緒に食べ、盛り上がります。玄関前で風にはためく（クリニックらしからぬ）黄と緑の石クリの幟は、一昨年の秋のひたひたな海浜公園リレーマラソンに皆で参加した時に、応援のため作ったものです。今年は春に横浜で行われる泌尿器科関連の学会に、皆で勉強に（というより遠足気分）参加する予定です。

皆家族のように仲が良く、笑い声が絶えないのが、石川クリニックの自慢です。なおイベントの美味調達は私の仕事なので、皆さまお勧めのレストランやケーキ屋さんがありましたら、ぜひ教えて下さい。

恵方巻

看護師 澤田 彰子

二月と言えば「節分」ですね。ここ数年我が家では、節分の夜に「恵方巻」を食べています。恵方巻は七福神に因み、かんぴょうやきゅうり、しいたけ、だし巻うなぎ、でんぶなど七種類の具材を入れて「福を巻き込む」という意味があり、恵方に向かって目を閉じて一言も喋らずに願い事を思い浮かべて丸かじりします。今年は日曜日なので、子供と一緒に好きな具を入れて、福を巻き込んで丸かじりしたいと思っています。ちなみに今年の恵方は南南東だそうです。

ヴァイオリン

薬剤師 石川 恵

ご無沙汰しております。石川恵です。冬の寒さに心が折れそうです。ふと目が覚めると春になつて、熊つていいなあ・・・。そんな小言はさておき、今回は私も弾いているヴァイオリンについての豆知識です。楽譜はト音記号という記号で書かれており、ソレラミの四弦の上に弓を滑らせて弾きます。合奏などでもメロディを弾くことが多いので、比較的馴染み深い楽器ではないでしょうか。

さて、ヴァイオリンと言えば「ストラディバリウス」。高価な楽器として本やテレビにたびたび登場しますが、これは楽器の名前ではなく、「ストラディバリ」という人が作った楽器の総称です。ヴァイオリンが有名ですが、ビオラ・チェロなどもあるそうです。一生に一度でいいから触ってみたいですね。

二人旅

看護助手 柴田 さち子

今までなかなか家を留守に出来なく、子育て、家事に仕事にと頑張ってきました。最近はお母さん、人生は一度きりだから、自分のために楽しみを作って」と背中を押され、また体にも時間にも余裕ができたので、これからは頑張った自分にご褒美ということで、昨年から友人二人で旅行に出かけることになり、中高年二人旅が始まりました。どに行っても出てくる言葉は「足元に気をつけて。段差があるから危ないよ。」と。「気持ちいいつまでも若いのに」と見栄を張る二人ですが、ゆつくり温泉に入り、美味しい食事を頂き、二泊三日の楽しい時間を過ごしました。「温泉最高！」

肉ごらい

看護師 高山 早苗

私は小さい頃から肉が嫌い、学校給食のおかずももちろん嫌いだ。しかし小学一、二年生の担任先生は全部食べるまで帰さないという考えだったので、私は一人残って給食を食べた。それによりよく肉も給食も嫌いになり、私にとつて給食の時間は灰色だった。二人の妹も同様に肉が嫌い、なのに両親は二人とも肉好きなのだ。母はどうしてこうなってしまったのかといつも首をひねっていた。そのためか母が作るカレーは肉なしカレーであつたが、父と母の分は別に肉を入れて作ることもあつた。娘たちがいないときは、二人で焼き肉にしていることもあつたらしい。現在も三人姉妹の肉嫌いは変わっていない。私の主人は「何はなくとも肉！」というくらい野菜より、魚より「肉が大好き」の人である。しかし我が家のカレーには肉ははいっていない。

映画『私の中のあなた』レビュー

事務 石川 香

邦訳のタイトルでは、安っぽいラブストーリーに聞こえますが、非常にいい映画です。原題は『My Sister Keeper』愛する娘が白血病と知り、その子に臓器提供するドナーとしての子供を遺伝子操作で誕生させる。姉を生かすために『創られて』生まれてきた次女アナの話です。幼い頃からドナーとして病院に通い、苦痛の処置を施されたアナが、物心ついた年齢まで達すると自分の尊厳を主張すべく両親を相手に訴訟を起こす。シリアスなストーリーに聞こえますが、家族の愛が溢れる感動の作品です。サウンドトラックも心に響く素朴な歌声が聞ける名曲の数々。ラブコメディのおちゃらけた役ばかりの女優キャメロンディアスも、この作品では、周りが見えなくなる程、病気の娘のために奮闘する母親を演じきり、その演技力は圧巻です。自分が『生まれてきた理由』をふと考えさせる心にしみる一本です。

